

文化財を「翻訳」する

—— より良い訳文を提供するために ——

吴 修喆・奈良文化財研究所

Tips on Translating Cultural Heritage Information

Wu Xiuzhe・Nara National Research Institute for Cultural Properties

翻訳／translation 文化財／bunkazai 文化遺産／cultural heritage

はじめに

文化財多言語化業務を遂行する際に、外部の業者に翻訳を依頼する場合もあるかと思います。本稿では、外注の日中翻訳実例を使いつつ、外注翻訳を利用する際の注意点や訳文をブラッシュアップする方法、文化財情報の日中翻訳における意外な落とし穴などをまとめてみました。

その翻訳、「偽中国語」になっていませんか

下記の中国語文章は、文化財高精細画像公開システム「e 国宝」に公開している平城宮跡木簡群の解説文を、実際に外注翻訳を依頼して納品されたものです。どこに問題があるか見てみましょう。

这些是从特别史迹平城宫迹（奈良）出土的木简群，小小木片上可以感受到当时建国旺势和文字使用初始时期古代人的生息状态。

木简为上有墨书的木制品，利用木头的特性和纸分具文书、浮签、标签等用途。出土的木简因来自遗迹，来历清楚，没有记载被改纂的疑问；提供了包括日常的各种事项，丰富而多彩的情报。奈良时代，因为文字利用快速发展，木简使用也广为流传。

从平城宫迹出土的木简我们看到一些时代背景：里面有平城宫内事务处理的文件，全国来的贡纳品的标签等，是传达政治、行政、经济实态的木简。从圣武天皇御物的标签到下级官僚的文字练习和涂鸦，手工业生产并行的社会和生活的具体实况都包含在木简里；达从了编纂过的史书，法律书里无法得知的奈良时代真实面貌的重要史料。

此外，从平城宫出土的木简上，可以看到因为把日语以“汉字”类似的外国文字记述，花了很多时间和努力。文字混合了隶书、草书、楷书，字体、**书体**、**书风**都不统一。直接传达了日本列岛**文字利用**大量普及之际，奋力完成，传给下一世代开展**实况**。

木简的小片很多，还包含有很多再利用的木简削屑；集合许多**断片的情报**，跟遗迹的资讯综合起来，可以总结研讨。这种史料特性，小木片也成了难得的国宝。

平城宫迹的发掘仍在继续，木简不断增加。这些已被发现以及尚未出土的木简，都被期待将来成为全民共有的贵重宝物。

中国語ネイティブの方や中国語学習者の皆さん、おわかりいただけでしょうか。まず、中国語の段落は2文字下げが基本です。この文章は日本語の1文字下げを直していません。「平城宮跡」は国土交通省・文化庁施設の既存訳がありますので、「平城宮遺址」に統一したほうがいいです。よく読んでいくと、主語・述語・目的語が不明な文や中国語では使わない表現、ひいては誤訳、句読点の乱用などが目立ちます。この訳文に見られる最大な問題は、一見中国語のように見えて、実は日本語原文を簡体字に市だけ（「頁」においては簡体字にすら変換されていない）の、訳されていない単語（赤文字）や日本語語順のまま（青文字）の部分が多いことです。このような文章を、最近、ネット上では「偽中国語」と呼ばれています。

我々の仕事は、外国人に正確な文化財情報を分かりやすく伝えることです。で、意味をなさない「なんちゃって多言語化」は避けたいです。翻訳業者を選ぶとき、または納品された訳文を校閲するときに、以下のようなチェックポイントを設けたほうがいいでしょう。

基本的なチェックポイント

- ☐ 情報に間違いはないか
- ☐ 施設名など、既存のオフィシャルな訳語に統一されているか
- ☐ ネイティブから見て読みやすく自然な言い回しになっているか（ネイティブチェック）
 - ☐ 現代中国語に使わなくなった単語や、見慣れない表現はないか
 - ☐ 口語的な表現や、俗っぽい表現はないか
 - ☐ 主語の省略などにより、意味が不明瞭な点はないか
 - ☐ 原文の情報以外に、中国人向けに補足的な説明は必要か

また、外部に校閲を頼む際には、「校閲機能を使用し、変更履歴を残してください」「文章表現を大きく変える際や、補足情報を入れる場合は、コメントで説明を入れてください」と指示します。

訳文を磨く工程

もちろん、「偽中国語」が納品されるのは極まれなケースです。多くの場合は、情報も文法も正確に訳されています。ただ、ネイティブにとって読みやすい文章にするために、もうひと工夫を加える必要があるかもしれません。以下に挙げた訳文原案は外注翻訳によるものです。

1. 直訳を避け、理解しやすい中国語にする

原文の情報を忠実に伝えようとする時は直訳になりがちです。直訳も翻訳技法の一つですので、必要に応じて使用していいですが、場合によっては直訳を避けたほうがより伝わります。そのためには、適宜に語順を調整し、長い文章を短く切るなどします。

- ・ 原文

写真で記録します。現在は、パソコンの画面で確認しながら撮影できます。

- ・ 訳文原案

用照片来记录。现在可以一边确认电脑画面一边拍照。

- ・ 修正案

为古文献拍照存档，通过电脑同步确认拍摄效果。

この文は記事に挿入する写真のキャプションです。原案は忠実に訳していますが、省略された目的語（ここでは「古文書」）を補うように修正しました。また、原文の「現在は」は、「昔は、パソコンで確認しながら撮影することができなかった」という意味も含まれていますが、中国語にすると、「は」が持つ対比的なニュアンスが伝わりにくいので、ここでは削除し、写真の場面に対する簡潔な説明文にしました。

2. 重複単語をなるべくなくし、中国語の簡潔さを忘れずに

日本語は中国語に比べて、言葉の重複をそれほど気にしません。しかし、中国

語に直訳すると目立ってしまいます。主語・目的語を整理し、代名詞などで言い換えるとすっきりします。

・原文

寺社の文化財は、先人たちが何百年もの間、大切に保管してきた結果、現在まで残ったものです。それらの文化財は、寺社が遙か昔に創建されて以来、幾多の盛衰を経つとも、今日に至るまで途切れることなく存続してきた証しです。

・訳文原案

寺院和神社的文化財是经过先人们几百年来的精心保管才得以留存至今的。这些文化財是寺院和神社自很久以前被创建以来，几经兴衰却香火不断留存至今的见证。

・修正案

这些文化财经先人们数百年间精心保管才得以留存至今，它们是寺庙或神社自久远往昔创建以来，几经兴衰仍香火不断的见证。

3. 訳文のテストを原文に合わせる

中国語は語尾の変化がないので、日本語のように敬語などの口調変化はないように思われますが、実際、話し言葉と書き言葉の差は大きいです。

・原文

もちろん、古文書の内容は玉石混淆で、虫食いだらけ、ホコリまみれの大変な状態のものも数多くあります。

・訳文原案

当然，古文献的内容鱼龙混杂，还有很多状况比较糟糕，虫蛀啦覆满灰尘啦。

・修正案

当然，古文献的内容鱼龙混杂，还有不少虫蛀情况严重或覆满灰尘，保存状态不佳。

原文は「ですます調」で書かれていますが、くだけた口調ではないので、書き言葉の中国語にしたほうが合います。

文化財用語翻訳の難しさと楽しさ

モノやモノづくりに関する言葉は、文字面だけで翻訳すると思わぬ落とし穴に遭遇します。実物の構造・用途または工程を確認しないと正確に訳せない用語も多々あります。ここでいくつかの例を共有しましょう。

にんぎょう ヒトガタ

人形・人形 原文は漢字のみでフリガナがついていません。同じく平城宮跡資料館の収蔵品ですが、実は、読み方が二通りあります。左の画像が「くらし(娯楽)」コーナーに展示されている「あやつり人形^{にんぎょう}」、つまりマリオネットですので、中国語訳は「活動人偶」になります。右側は「まじない」コーナーに展示されている呪いの人形^{ヒトガタ}ですので、中国語訳は「(用于巫术的)人形替身」になります。



削りくず 日本語で同じ表現となっていますが、実物によっては異なる訳語で対応しなければならない場合もあります。例えば、木簡の削りくずでしたら、専門用語としての「削衣」に訳します。しかし、木器を作る際に出た削りくずは、形態によって「木屑」または「刨花」に訳さないといけません。

なで・ナデ 平城宮跡資料館には、土器の製造手法について説明するパネルがあります。そこに、「なで (smoothing, 布や皮・手を使い、土器の表面をなでて滑らかにします)」という製法が紹介されています。この「なで」は、説明に沿って中国語訳を「抛光」にしました。しかし、韓国国立文化財研究所が出版した『韓・英・中・日考古学用語比較集』(韓国国立文化財研究所2012)に載っている「ナデ」は英語によると、fixing with waterという意味で、「素地に付いているダストなどを水で洗い落す工程」を指します。『角川日本陶磁大辞典(普及版)』(角

川学芸出版2011)で調べると、「水拭き」ともいって、「水に浸した布やスポンジで器面を磨き、器面を滑らかにする最終仕上げ」という工程を指します。したがって、中国語では「擦水」といいます。二つの用語は偶然にも同じ発音で、それぞれ、ひらがなとカタカナで表記されていますが、具体的にどういう工程なのか、把握しないと正確に訳せません。

鋤・鍬 わりとよく知られている例ですが、日本語の「鋤」は中国語で「鍬」、日本語の「鍬」のほうが、中国語では「鋤」と書きます。まるでいたずらのように漢字が逆になっています。もちろん、実物は形が違うので、そのまま原文の漢字にしていまえば誤訳になってしまいます。

檜扇・檜・ヒオウギ 宮廷のくらしには「檜扇」がよく登場します。しかし、動植物の名称にもまた落とし穴だらけです。檜扇の材料であるヒノキは中国では柏科の植物で、学名は「日本扁柏」(中国科学院微生物研究所「中国高等植物データベース」を参照)となります。「柏」という漢字を使います。ちなみに、日本語のカシワは中国語では「櫟」になります。遺物の材質としての「ヒノキ」を訳すときは「日本扁柏」ですが、扇子である「檜扇」はすでに簡体字にただけの「桧扇」が浸透していますので、固有名詞として原字を採用しますが、必要に応じて材質に関する補足説明を入れます。また、植物名としての「ヒオウギ」(種は「ぬばたま」という)は中国語で「射干」(種は「射干玉」といいます)。

おわりに

本稿は決して翻訳方法を説いたものではありませんが、本研究報告が文化財情報翻訳の経験を共有する場となって、今後、全国における文化財多言語化事業に携わる訳者ととともに翻訳の質を高めていけることを願っています。